

通信	同
支部	舟
No. 36 12月号 12月26日編集発行	
東京都宅地建物 取引業協会 府中支部 編集兼発行人 高野豊次	

### 十二月定例理事会開催

とき 十二月二十五日午後三時半より  
ところ ダイワ不動産  
出席者 内山・榎峠・結城・高野・山村・辻・平井・各理事・加藤監査・栗山・山岸各本部長・鈴木氏

- 要領左の通り
- 一、新聞社新年広告について  
住宅・週刊・府中民報の三社より支部としての新年広告申込みあり、恒例により一社参千円宛広告料を支出の旨山村理事長より報告あり。
  - 二、本部新年宴会について  
明年一月十八日日本部新年宴会開催の予定にして当支部よりは榎峠・加藤(武)・辻・高野・山村の諸氏が出席することとした。
  - 三、才八回常務理事会について

- 四、不動産手帖等配付について  
昭和四十二年不動産手帖出来上りにつき店主に村・辻・両氏が出席し、その会議の様詳細報告あり。
- (1) 昭和三十二年不動産手帖出来上りにつき店主に對し一冊宛無料配付、尚従業員等にして購求希望の向は一冊二百二十円につき支部に申込みたし。
- (2) 不動産取引事例集出来上りにつき各店一冊宛無料配付
- 五、支部新年宴会について  
当支部の新年宴会を開催すぬや否やについて審議の結果三月の総会もあり新年宴会開催は見送ることとした。
- 六、免許申請について  
登録を免許に切換え申請については来る三月末日が最終期限につき若し手続未了のむきは同期日まで手続をとられたい。

### 人と店

府中市宮西町の繁華街に株式会社丸善がある。社長は石川秀一君で北海道日高の生れ本年六十四才である。石川君は昔小牧工業を中途退学後、自ら耐火粘土を発見し、これを機として所謂地質や鉱物学を学び電業の技術者となつた。

日本到るところの地質や鉱物調査をしたことがあり、遠くは天草方面へも行ったことさへある。終戦後電業の技術者として日本鋼管に入社したが始めの条件と違うので間もなく退社し銅などを扱う光物の商社を経営した。ところが不幸取込みサギに会い、これ又時ならずして会社を閉鎖するの止むなきに至つた。

その後考えるところあり昭和三十年神奈川県に於て取引主任者の試験を受験の結果合格を得たので溝ノ口で始めて不動産業を開始し府中市に店舗を移したのは今より八年前である。

同君の笑顔は至つて仁和で人格は円満な一面、見かけによらぬ度胸があり、小さな商売が嫌いな方で土地の売買にしても概ね大口と取組み而もそれがすべて成果を納めている。

過去府中の矢崎、南町、是政方面に於ける大口の売買又は斡旋には必ず同氏が手をそめておるところを見ても如何に大口に精進しつゝあるかが窺われる。

尤も大口となると数人乃至は数十人の地主が関係しており、これを取纏めるには並大抵のことではなく相当の技術と思索を要するが、その「コツ」といふ様なものを聞いてみると地主を料亭へ招待したり品物を持つていつて所謂コネをつける様なことは一切せず前向き姿勢を以て専ら金融機関とタイアップしてことを進めることにしている。そして地主と会議などを要する場合でも銀行や金庫の会議室を借用するので地主も

下手なところで会議をするよりも余程信用がおけるし一面まじめに一切を忌憚なく説明することにより地主の納得を得るものでこの方式により今まで一回として失敗したことがないという。

現在は埼玉県に於て、大約六十万坪の大口をまとめつゝありというが成功を期待する。

家庭には夫人の外一男一女あり、自重自愛幸多きを祈つて止まない。

### 懇親旅行に関する一、二の問題

当支部では会員懇親の為恒例により春秋二回の旅行を行つておるが全然これに協調せず甚だしきは我まゝ勝手なことをいふらして平然としている人がある。これと反対に旅行は会員としての一つのおつき合であり、何が何でも欠かしてはならぬとその都度参加する殊勝な方もいる。

年に僅か二回の懇親旅行で金額も一回三千五百円程度につき仮令色々の都合があつたとしてもつとめて旅行に参加するのが会員としての常識であり、支部に對しての一つの責務かもしれないので今後は全員努めて旅行に参加してほしいものである。

ところがそれは別に懇親旅行に對する寄附に關し云々する人があるが寄附は支部に對しての寄附であつて特にこれを拒否する理由もなく、反面その寄附が旅行経費の一端ともなるので寄附そのものは洵に重宝な

ものであり貴重なものである。

仮りに寄附が皆無であつたとする場合、方今の旅館事情では一人当りの経費が滅法高額となり、勢い参加人員も自然と減少して淋しい旅行となるかも知れない。支部としてはなるべく安い経費で一人でも多く旅行に参加出来ることを念願しており、こゝに若干の寄附を希望するのも無理からぬところである。

然し或人曰く寄附は一種のお情けであつて吾々は、そのお情けがつかつてまで旅行することは忍び難く、むしろ五千円でも六千円でも、かゝつただけを割勘にし気持ちの良い旅行をしたい!!

なる程そう云う見方もあるかもしれないが私に云われれば、それは一個の考えであつて十人が十人決して寄附をお情けとは考へておらず、反面寄附する人も支部の旅行に寄附したものでは決して特定の人の情けを掛け様など気持は毫末もない。

要はこのことについては余り狭義に解釈することを避け、寄附は遠慮なくこれを受けみんな愉快地気楽な旅行をしたいものである。

### 一口随想 秘書(二)

文彦は局長に随行して福井地方へ旅行し、ついでに曹洞宗の大本山である永平寺に詣でた。

刺を通じて管長に会わんとしたが生憎不在のため副管長に面接し、お茶など接待を受けた。

その折、菓子盆として出された皿が、永平寺の定紋

と名入りであつたのに局長大いにお気に入りその皿を是非一枚買つてくれという。

給仕の僧に話したところ副管長に直接頼めというので恐る恐る副管長にお願したところ、これは寺の什器となつておるのでいくら局長さんの懇請でも一枚も差上げられないとアツサリ断られてしまつた。

幸か不幸かその時分から局長はこうした有名寺の什器類を蒐集することに興味を持ち、行つたところで、そうしたものを集めてくれという、秘書としては洵に厄介な仕事である。

遇々京都には有名寺が数多く、清水とか東寺など、本山格の寺院の什器を集めることも又一興とし是非これを蒐集する様にとの頼みがあつた。

然し秘書として仕事の傍らでは、なかなか出来ない相談なので京都地方を管轄する下級官庁に依頼することとなりその所長に話して見たところ簡単にこれを引受けてくれた。

ところがその所長がいよいよ各寺に當つてみるとこれは又なかなか容易な業でなく洩れなく蒐集することは到底至難であることを悟つた。

然し今となりこれを断わる訳にもゆかず、面目にかけてもなんとかせねばならぬことになり、色々と思案の挙句、一層清水焼の竈元に依頼して各寺各様のものを作つて貰うことにした。

幸い、竈元では従来製作した経験もあるので心よく引受けてくれ旬日にしてその製品が出来たので早速鼻

### 消息

○十一月十九日料亭大國に於て賛光印刷所(経営者高野不動産・鈴木喜久治君)の開店披露あり、多数参加して盛会であつた。

○十一月二十五日八広不動産平井進二君の邸宅上棟式あり、後刻高倉荘に於て祝賀会を開催、多数参加して盛大であつた。

○新規組合員加入  
今回左の通り組合員の新規加入があつた。

宮町 三信工業不動産部  
中河原 丸山不動産研究所  
宮西町 三友商事不動産部

### 編集後記

○十二月分の定例理事会はくれも迫つた十二月二十五日に開催せられたので十二月号同舟は年内におとゞけすることが出来ないと思ふ。

○顧みれば昭和四十一年も吾々業界にとつては不況の連続であり不況だ不況だといひ乍ら又一年がすぎた。

○昭和四十二年度の国家予算は五兆円、他に公債発行八千億円ときく、数字だけ聞かされても何の事はない。

○安定成長とか何とかうまいことをいうが、吾々にとつての現況は安定どころかデコボコ成長といいたたい。

○大企業家のみに景気は片寄りする。  
貨物給の荷物が片寄りすれば船は沈没すると同様、片寄り経済は是正してほしい。

昭和四十一年十二月二十五日夜しるす 高野

高々と局長の前に持参すると流石は局長である。一見してこれは寺で買つたものでなく、どこかで作つたものだと見破られ、九仞の功を一簣に欠く結果となつてしまつた。その上この所長はその為だとは思わぬが他へ左遷されるなど本當に気の毒なことをしてしまつた。

如何に宮仕へがつかいかということを知る人ぞ知るである。(以下次号に)

### 本部報道部会

十一月二十一日本部に於て才十四回報道部会あり、当支部よりは高野理事が出席した。

審議事項は会報新年号の作成についてであるが大したことなく、一時間余で審議は終了した。

その後引続き本部主催の各種研究会の進行状況の説明あり、就中不動産会館及び物件センターの設置については相当期待が持たれた。

(注)

○不動産会館 新宿近傍に於て土地一〇〇坪、五階建鉄筋コンクリート予算七千万円会員七千名につき、一人当り一万円見当の割当、株式会社とする見込。

○物件センター、各業者より手持の物件を提示する。本部ではこれに基きカードを作成夫々の地区毎にカードを保存する。求める業者より照会があつた場合該当地区のカードを調べ、格好のものを摘出して通知する。

物件の提示者と求めた業者間に於て売買の交渉をする。本部としてはカード代のみを物件提示者より徴収する建前である。